

# 「第1回観光交流空間のまちづくり研究会」の報告

乃村工藝社 小野太輔

美しい国づくりをめざす、観光交流空間のまちづくり研究会の第1回会合が12月6日九段会館で開催されました。

これに先立ち、都市における街づくりの成功例として、三菱地所設計の都市環境計画部、深尾周一部長の協力を得て丸の内中通りの見学をしました。バブル以降衰退の始まった丸の内一帯をいかに活性化するか、三菱地所をはじめ地元90社で構成する大・丸・有・再開発推進協議会が、都や区と共に協議を重ね、東京駅や周辺の再開発が推進されて、1997年からはこの仲通りの計画が始まり、ペニンシュラから行幸通りまでの800mの道路に、30億円の費用を投じてその構造を変えたのです。車道を狭め、石畳に変え、緑を増やし、休息スペースやイベントスペースを設けて歩行者優先の空間に変えたことにより、オフィス街の一階部分に有名ブティックが集まり、街を歩く人が増えて、地域ブランドが高まり、店舗の売り上げが増え、オフィスの賃料も2倍をこえる上昇をしているという、歩く人を増やす街づくりが如何に効果的であったかを、実際に勉強しました。

観光交流空間のまちづくり研究会は、全国各地からおいでになったマネジメント会員および技術委員会の専門委員42名と報道6社が出席し、熱心な討議が行われました。参加者から提起された諸問題に対し、次回以降研究・討論を進めて行く予定です。

観光交流空間のまちづくり研究会 目的と活動

## 【構成】

国際観光施設協会マネジメント会員 66社  
同 技術委員会および交流部会専門委員

## 【目的】

「美しい国づくりとは、地域づくりである。」

本来その地域にある美しい風景や歴史、伝承文化や物語、生き生きとした知恵深い農・商・工の生活の風景、人情や郷土料理、温泉をはじめ山や緑・澄んだ空気や風、水や花やホテルも、様々な「土地の力」を活かして、観光交流空間を創り出します。

これまでの観光関係者だけでなく、その土地に生きる商店、農家、林業、漁業、様々な企業、さらに教育者、金融、行政関係者など、全ての力を集めて、日本らしい、その土地独自の「観光交流空間」を各地に創り出します。

国際的な観光競争に応える特性を備えるとともに、地域の誇りの心を育て、それが継続できるような、持続可能なやり方を根付かせることを目標とします。

## 【活動】

- 1 まちづくり、地域づくりの手法の研究・意見交換
- 2 報交換と議論により、空間の独自性を高め、類似を避けます。
- 3 専門委員による地域調査、提言、地域フォーラムの開催。
- 4 協会の各種セミナーや施設見学会への参加
- 5 国土交通省観光部との活動報告や意見交換

## 【定例会】

毎年「夏会」：5～6月、「冬会」：12月（東京）

来年度の夏会に向けて

来年度の夏会は5月8日に開催します。初回「夏会」の年度幹事は小埜様、渡辺様2名にお願いし、テーマは「秩父の花のまちづくり～夜祭について～」(埼玉県長瀬町にて)を予定しています。

涌井副会長による基調講演

研究会にあたり、話題提供の観点から、「日本の観光交流空間のあり方」について、当協会の涌井副会長が講演を行いました。



出席者による「まちづくりの現状報告」  
(敬称略)

新潟県月岡温泉

ホテル泉慶 代表取締役 飯田 浩三

《概略》 新潟県新発田市。年間宿泊者人数は約60万人。自然環境(海・山・川)が豊富。弱アルカリ性低張性高温泉で、肌のスベスベ感を感じることができる。

《現状の取り組みと課題》

(財)民間活力開発機構と新発田市が提携し、月岡温泉にて年2回、「健康づくり大学」と称して、「温泉」「食事」「運動」「環境に浸る」を4つの柱に「健康」に向けたプロジェクトを実施しています。この「健康づくり大学」を機に月岡温泉全体が、どこの旅館・宿泊施設も「健康づくり大学」に対応した施設づくりを計画しています。また「健康美人の里構想」を作り、「美人」と「健康」を合わせて、地域全体盛り上げていく工夫をしています。

今回、2,500坪ほどの土地を旅館組合が自力で落札・買取りました。土地の活用方法が未だ決定していませんが、「里」という色彩を強く打ち出しながら、且つ芯の通ったインパクトのあるユニークなものの

実現を考えており、是非、国際観光施設協会の皆様方に知恵を頂きたいと思っています。



未活用の2,500坪の土地

長野県鹿教湯温泉

斉藤ホテル 相談役 斎藤 兵治

《概略》 国民保養温泉地(環境省)のひとつで、「健康の郷」として知られている。単純泉(弱アルカリ性低張性高温泉)で泉温は47.9。

《現状の取り組みと課題》

「氷灯ろう夢祈願」(期間:12月29日~2月11日まで毎日開催、場所:文殊堂・五台橋・薬師堂周辺)を開催しています。また、「五台橋通り抜け茶会」と称し、屋根付の橋で行われる風雅なお茶会を実施しています。また、厚労省の温泉地整備計画により、40年ほど前から遊歩道の整備に

取り組んでおり、今では温泉地の遺産になっています。その他、「里山のパッサージャータ」(鹿教湯温泉や周辺の里山を歩いて滞留して交流して楽しんでもらうことを目的に「四阿建設」「植栽」等を計画)といった取り組みも進めてきましたが、考え方は定着したものの、まだまだまち全体に広まっているとは言えないのが現状です。



問題のある温泉地の現状

宮城県秋保温泉

ホテル佐勘 代表取締役社長 佐藤 勘三郎

《概略》 仙台から車で約30分の山あいに位置し、政令都市にある温泉地としては、札幌郊外の定山溪温泉、神戸郊外の有馬温泉と合わせて100万都市の仙台市郊外に位置している。3温泉地提携事業と称し「都市にある温泉地として何が出来るか」をテーマに取り組みを実施中。宿泊客数:約90万人/年。

《現状の取り組みと課題》

観光協会がなく、仙台市コンベンション協会の秋保支部が観光協会の役割をするはずが、現状では機能していない状況です。観光振興については旅館組合のほか、若手中心の「秋保観光カウンスル」と称した実践的な観光振興を図っていく推進役がいます。仙台市の施設である「秋保・里センター」が指定管理者制度に向けた「秋保活性化協議会」という組織(約10名ほど)を立ち上げ、地元で何とかしていこうとしており、旅館組合・カウンスル・協議会三位一体で観光活性化を図っています。

具体的な取り組みとしては、「秋保温泉ノルディックウォーク」(所要時間:約1時間)を実施(4年目)。毎週日曜日に旅館組合が講師役になり、宿泊客を中心に、朝飯前の運動を提唱しています。その他、味噌づくり(「秋保福おみそ」)、湯けむり音楽会(生演奏)の実施をしていますが、残念ながら秋保らしい独創的な観光地づくりができていない状況です。

## 群馬県四万温泉

四万温泉協会 宮崎 信雄 事務局長

《概略》 群馬県の奥西部に位置、草津・伊香保・水上の谷間にある温泉地。

《現状の取り組みと課題》

「トイレ貸します」「雨宿りどうぞ」運動（各旅館・商店に看板を配置し、やさしい温泉地づくりを実施）や、「お尋ねください四万のこと」運動（四万温泉中のスタッフがこれを身に付け、道に迷っているお客様にこちらから声を掛ける運動）、「四万TEXT」（旅館・観光施設の全従業員に配布、抜き打ちテスト実施により四万の知識を身につける取り組みを実施）、「四万の森募金」（自然を創る取り組みの一つとして、プランターが2,600鉢あり、春から秋にかけて花を植える）などの取り組みを実施しており、“おもてなしの心”を持ち温泉地全体を交流空間にしていく努力をしています。またマスコミを大切にし、四万温泉の知名度を上げる努力をしています。

## 福島県母畑温泉

八幡屋 代表取締役 渡辺 忠栄

《概略》 福島空港から約10kmに位置。旅館は5軒程で、約200年続く湯治場。

《現状の取り組みと課題》

組合活動もほとんどなく、八幡屋以外では各旅館ともに設備投資もほとんどしていない状況です。但し、八幡屋1軒では生き残っていけないと考え、まちづくりを目的に今回の研究会などに参加し、まちづくりを学ぶことで、地元へ知恵を持ち帰り、仲間に伝えることを自身の目標にしています。八幡屋1軒単体でこれまでの約30年間で計5回、トータル約100億円近くの設定投資を実施してきました。そして「点」から「線」そして「面」への整備の必要性を感じ、山の上に「お稲荷さん」を整備、300段の石畳や赤い鳥居を整備し、ライトアップ事業を進めています。今後、この取り組みを参考に、地域内の旅館を巻き込んで、まちづくりに取り組んで行きたいと考えています。

## 長野県白骨温泉

まちづくり委員会 斉藤 元紀 委員長

《概略》 松本市から西へ約1時間程、高山から東へ1時間程の観光資源に恵まれた場所に位置。

《現状の取り組みと課題》

2004年の温泉事件以降、地域全体でコミュニケーションを取る必要性を痛感し基本に立ち返るため、活動を中断していた「まちづくり委員会」を復活させました。現在では、白骨のお湯は飲むことが可能なことから、オリジナルの飲泉カップを作成し、また飲泉所が現在1箇所のみのため、将来的に2～3ヶ所に増やしていきたいと考えています。その他、良い水に恵まれているため、飲水所も整備していく方針です。今後とも、自然に対し畏敬の念を抱く場所柄、温泉・自然に対し謙虚にまちづくりを実施していきたいと考えています。

## 静岡県伊東温泉

ホテル暖香園 代表取締役 北岡 貴人

《概略》 伊東温泉はじめ伊豆東海岸エリアでは観光客数の落ち込みが激しいエリア。

《現状の取り組みと課題》

ドーナツ化現象で、旧市内の人口が減少、新しい施設が整備されている市外に人が流れています。原因は用途地域などの弊害です。病院や小学校が点在するエリアで風俗営業を行うホテル・旅館の改造時、周囲の土地所有者の承諾が必要になるが、ほとんどのケースで承諾がもらえない状況にあります。そのため改造ができません。また、街中に公団上の青線（水が流れていないが河川に指定されたエリア）が多く、大型施設建設が不可能です。熱海・伊東地区は昔から知名度があり、観光業者が労せず経営してきました。最たるものは、「国際温泉観光文化都市」と標榜しておきながら、伊東温泉の駅前にある観光協会です。これを魅力あるものに作り直し、まちのPRに努める必要があります。私自身の思いは、将来の伊東温泉像は「都市型の温泉地」ですが、昨今の経済情勢もあり官が動かないため現状では推進することは不可能です。

## 福岡県原鶴温泉

ほどあいの宿 六峰館 代表取締役 井上 善博

《概略》 福岡から約1時間程に位置。筑後川の中流域にある。

《現状の取り組みと課題》

先日、NHKにて私共の苦しい現状が放映され、特に高速道路が整備され通過点になったことが問題でした。打開策として、街並みを整備してこうと、旅館組合事務所を今年の5月に観光案内所として和風の建物に造り替えました。また、今月から国土交通省の景観整備事業により鶴飼で有名な筑後川にて親水性を高めるための事業が開始し、来年3月末より護岸工事がスタートします。また、九州国立博物館まで40~50分の距離に位置していることから、歴史文化のまちづくりに取り組んでいく予定です。



## 行燈旅館（東京都台東区日本堤）

代表取締役 石井 敏子

《概略》 2003年6月にオープン。三ノ輪に位置。旅館名は江戸時代の有明行燈に由来し、2005年日本建築学会の「作品選奨」に選ばれた。

《現状の取り組みと課題》

オープン4年半で集客は好調、100%が海外からの宿泊客です。日本の建築物は世界中から注目をされており、利用客の多くが世界中の設計士・デザイナーが中心です。建物も景観の一部です。「良い建築を建て海外から来てもらおう」という意味で、日本独自のものを守る建築物をこれからも皆様に設計・デザインしてもらいたいと思っています。



## 助六の宿・貞千代（東京都台東区浅草）

専務取締役 望月 丈義

《概略》 全室20室で、外国人利用率は約25%の宿。

《現状の取り組みと課題》

現在、台東区では「フィルム（シネマ）コミッション」(事例：TBSドラマ「浅草ふくまる旅館」)として観光の立ち上げを目指し、景観を活用する取り組みを積極的に実施しています。また、東京都としても、水辺景観の整備（隅田川的美観）や集客イベント等を検討しています。浅草の現状の問題は、居心地の良さからマンションが増加傾向にあり、国際通りや特に言問通り沿いではマンションストリート（建蔽率ぎりぎりのマンション群）のような様相になっています。それにより、古くからあった店舗が立ち退き、店をたたむ現象が起きています。料亭街においても昔の文化が根付いていたものが、減少傾向にあります。古き建物をリノベーションしながら活用している良い事例（神谷バーなど）を参考にしながら、考え方を見直す必要があります。

## 観音崎京急ホテル（神奈川県横須賀市）

取締役社長 長岡 紀雄

《現状の取り組みと課題》

今年1月に横須賀市と京浜急行とで「旅客誘致協議会」が発足しました。横須賀市の人口は毎年少子高齢化の影響で減少傾向にあり、大企業の従業員リストラ等での影響で法人税減収もあり、観光に活路を見い出す動きがあります。今年が横須賀市の「市制誕生100周年」にあたり、京急ホテルの目の前に市の美術館を整備、入込み目標が15万人/年間のところ、約8ヶ月間で目標を達成しました。京急ホテルは一昨年、ホテルの隣にスパをオープン、女性を中心に宿泊客が増加し、さらに美術館効果により、お客様の8割が旦那様を連れる50歳代の女性客が中心となりました。そのこともあり、今まではマイカー利用が7割から6割弱に減少し、リゾートに必要な交通アクセスが課題にあります。地元ブランドの活用も考慮し、平均宿泊日数1.5泊を2.5泊~3泊に増やしていくため、「女性へのもてなし」「文化施設としての向上」を図り、滞在型観光地づくりを目指していく方針です。

《概略》 「知覧武家屋敷」「知覧特攻隊」など観光資源が豊富な知覧に来る観光客の多くは、指宿に宿泊する。年間の宿泊客数は昨年で約 90 万人。

#### 《現状の取り組みと課題》

指宿では、ここ最近の行政の圧迫により厳しい状況に直面しています。今一番力を入れていることは来年の NHK 大河ドラマ「天璋院篤姫」の活用です。別邸の周りを散策するコース（30～40 分）をウォーキングをかねて、ボランティアガイドが案内します。ガイドを育成（半年間で 25 名を育成）し、今では 47 名のガイドがいます。今年の 4 月から土日限定でスタートし、10 月には約 3,000 名に、11 月には 5,000 名強の利用があり、ドラマ放映が近づくとつれて、増加傾向にあります。町の人々が自らボランティアガイド（平均 60 歳以上の男女）を行い、歴史を知ることになりその結果、まちづくりと同時に人づくりに繋がりました。現在、年間の入湯税収入（2006 年）が約 1 億円で、この内の 25% は毎年必ず積み立て、観光協会等の活動資金にしています。

#### 小布施のまちづくり

宮本忠長建築設計事務所 代表取締役所長 宮本 忠長

約 30 年間、小布施のまちづくりに携わっています。当初まちづくりをスタートするとき、日本には、まちづくりの手本になるものはありませんでした。多くは古い建物を壊し、新しいものを次々と建てるケースを目にしました。私は当事、町長と話し合いを重ね、小布施の町らしさを追求していこうとの思いで、まちづくりをスタートしました。毎日芸術賞を受賞し、それを起爆剤に認知度が高まりました。温泉施設が一つもありませんでしたが、町中を自由に出入りできるように人々に開放したことで、この町でゆっくりしてもらえれば良いという考え方が定着しました。

現状のまちづくりでは、行政が新しい建物を計画する際に、コンペを行い、それぞれに設計者を決定します。しかし、本来は一人の建築家が何十年にわたり一つのコンセプトでまちづくりを進めていくことこそが大切であり、その考えで私自身も小布施のまちづくりに今後とも携わっていきたくて考えています。

日頃、日本文化の衰退、地域間格差、まちづくりの問題など建築雑誌を通して考えさせられています。社会が発展し続ける中、建築のサステナビリティの必要性が問われ、景観においても様々な専門家が試行錯誤しているが、年々国際化という流れの中で取り残されている地域があります。何年もするとまちの姿が一変してしまう、古い建物が記憶からなくなってしまうような状況下、今回のような研究会を通じて、日本全体の問題として皆で手を携えて、考え取り組んでいかなければならないと感じています。

来賓挨拶：国土交通省 総合政策局

観光事業課 花角 英世 課長

最近の観光行政の動向（「観光立国推進基本計画」「観光庁の新設」等）については、別紙資料をご覧ください。

貴協会の「観光交流空間のまちづくり研究会」の今後の取り組みについて、大変期待を持っており同時に・・・

結果的に素晴らしいコンテンツを創っても最終的に消費者に認知してもらわなければ意味がなく、観光客に来てもらえない。そのためには既存のマスツーリズムとは違う着地型の旅行商品を、旅行業の力を上手く活用しながら利用者に認知してもらうための「流通の仕組み」を、国土交通省としても応援していきたい。結果、素晴らしいまちづくりを利用者に知ってもらい、より多くの観光客に来てもらい、そのことによってさらにまちづくりを促進していくような好循環が生まれるように国土交通省としても後押しをしていきたい。また・・・

来年の通常国会に向けて地域振興のための新しい法律を考えており、複数の市町村・都道府県が組んで官と民の協議会をつくり、観光振興のための計画に対し、一定の基準で認定した場合に補助金（ソフト部分を中心に）・融資・税制上得点をする地域振興立法に向けて取り組んでいる。

